

研究主題

国際的な視野を広げ、英語で豊かに自分を表現する子の育成 ～「英語と異文化に

豊かに自分を表現する子の育成 ふれる」授業実践を通して～

時代の要請

豊橋市は、人口の約5%を外国人が占める国際都市である。今後も外国人が増加していくことが予想され、これらの人々と共生していくことが求められている。

一方、世界に目を向けると、通信技術の発達、交通手段の高速・大型化により、世界の国々が国境を越えてつながるグローバル社会が到来し、このめざましい変化に対応していくことも求められる。

そこでは、広い視野をもちながら、その視点を生かして、地域においても活躍する人材が必要となる。異なる文化や背景をもつ人々と、国際共通語である英語を使って、互いの文化や考え方を受け入れながら、思いや考えを伝え合うコミュニケーション能力を育てることは喫緊の課題である。

実態

子ども

- 学習への関心や意欲が高く、どの教科に対しても前向きに取り組むことができる子どもが多い。
- 子どもが何かをしたいと思ったときに、祖父母や親からの支援をすぐに得られることが多く、時間と労力を費やして問題解決をした経験が少ない。
- 自分の思いや考えを、どうやって相手にわかりやすく伝えればよいかとまどう子どもが多い。



地域

- 3世代で暮らす家庭が多く、保護者の教育意識が高い。
- 地域への愛情・愛着が深い。
- 校区に市役所や歴史的建造物、伝統的な祭りがあり、観光客や外国人が多く訪れる。



めざす子ども像

多様な文化や考え方を共感的に受け入れ、

5・6年
英語で発信する

他者に配慮し
工夫して
発表する

3・4年
英語で
考えようとする

相手を意識し
意味のある
やりとりをする

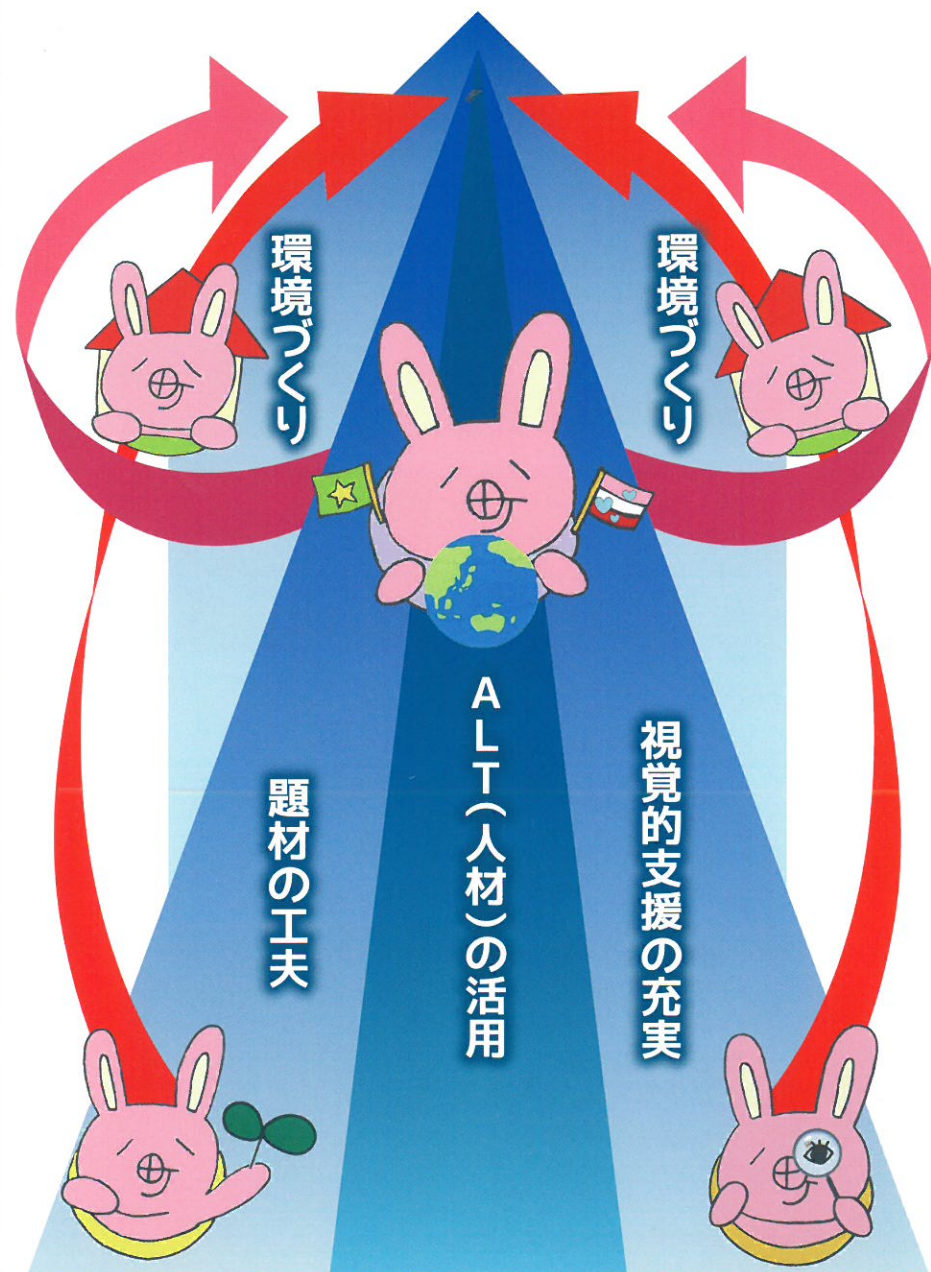
1・2年
英語に親しむ

聞いてわかり
言ってみる

自分の思いや考えを表現するにとまどう子



自分の思いや考えを英語で豊かに表現する子



研究の仮説

英語を取り入れた授業において、**英語に慣れ親しむ学習環境を整え、異文化にふれる単元や題材を意図的に設定すれば**、多様な文化や考え方を共感的に受け入れながら、英語を生かして**自分の思いや考えを豊かに表現**することができるだろう。

てだて

てだて1

環境づくり

- 朝学習や今日の歌、校内の表示に英語を取り入れ、日ごろから英語に慣れ親しむ環境を整える。

てだて2

題材の工夫

- 外国の人に対して、英語を使う必然性をもたせられる単元や題材を工夫する。

てだて3

視覚的支援の充実

- 具体操作を行う活動や、実物、写真などを生かした視覚的支援を行う。

てだて4

ALT(人材)の活用

- ALTを中心とした外国人と関わったり、さまざまな国の文化や考え方にふれたりする場面を設定する。